
靈感少女（ヲタク）と、その守護霊。

妄想の王者？

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラタク
靈感少女と、その守護霊。

【Nコード】

N8635R

【作者名】

妄想の王者？

【あらすじ】

霊が視える、ヲタ美少女（自称）と、その守護霊（執事！？）との、恋愛・・・もののはずです。はい。

（前書き）

自己満物語でよければ、読んでくだしあ。

面白い人には、面白い・・・はず。ウン。

「もううんざりだああ!!」

空に向かって、吠え散らしていたのは私、ユウサキ 柚崎 マリサ 茉莉沙。

セミロングの髪は艶めく漆黒、瞳は金色と明るい茶色のコントラスト、偽物かと問われるほどに長く、曲線を描き、煌めき大きな眼をまなこ縁取る睫毛……。今日も私は美しい。

ええ、ナルシストですが何か？

そもそも、全くナルシストで無い人間など、この世に存在しない・
・これが私の持論なくらいですもん♪

まあ脳内の誰かさんへの説明、語りかけはこの位にして……。

「ここんどこ、ほんつと付いてなあああいいいい。

マジJK。俺JC。

あああもうアニメ見過ごしまくり、PC禁、金欠により、メ●トのくじも、某執事漫画の最新刊逃してるしい（特典付いてる内に買わないとつ!!）、コペックもインク切れで買いたい色溜まつてるし、早く寝たにも関わらず遅刻したし、ぬかるみで転んでしまったせいでジャージなうだし、親は『親に頼ることなかれ。』とかほざきやがって!!!SHIT!!!」

機関銃のように喋る私をみて、見下した表情で頭をなでてくるコヤツは、同じクラスの村井 ユイ。

真っ黒の髪の毛、真っ黒な瞳、私より高い背、白い肌。運動は苦手
で勉強が得意。

そして、ヲタク。

まあ、最後の方の台詞で分かるように、かくいう私もヲ・タ・ク♪
なんだけれどもww

「アハハツ 苦労してまちゅねえww」

「うん^^明らか見下してるだろ、おまえwww」

少しくらい背が高いからって、調子こくなや？ww

「どうでしょwwつつか、なんでわざわざ帰りみちでいうんだY
O！」

「嗚呼・・・それはのお、妾の一族集いし回廊に、狂った魔獣が屯
していてな・・・」

「厨二www」

「うつせwww」

まあ、ぶっちゃけ教室ではキョドリまくってこのテンションで話せ
る機会がないつつことなんだおなあ。

私のクラスは、一番後ろのクラスで、ヲタ同盟（通称ファミリィ）
の仲間は、私を含めて三人だけ。

一番最初のクラスに主要者が集まってしまっている。テラ孔明ww

おかげさまでリア充共に怯えまくっている私は、容姿が秀でて（おいつ！）いても、なかなか喋れず廊下や帰り道ぐらいいしか喋らないえ？モテるか？って？んな訳あるかい！！ヲタってだけで、敬遠されておりますが？？ww
いわずもがなだお。

「考え込んでますねえ・・・んじゃこの辺で。」

ユイの声に、はっと我に振り返れを告げた。

図書室で借りた、ラノベをポケットから出して読み始める。
歩きながら本を読める・・・これも私の特技だZE。

「・・・・・・・・・・。」

何とか空間で、好きなキャラが神なんとかと戦うシーンだったからか、

アニメ版のCVが某執事と同じで、声が脳内再生されて微笑んで（ニヤついて）いたからだろうか。

いつもなら、強気に対応すればこない奴が

憑いてきた。

厨二病設定でもなければ、妄想でもなく、私には視えてしまうのだ、俗に言う幽霊という奴が。

視える人間は大抵怯えて、自身の意識力（気？のようなもの）が弱まり、乗っ取られてしまう。

私は、小学校の時にそれで虐められたからか、逆に普通のひとに怯え、霊には怒り？で対抗していた。
今は、友人が出来、喜びと幸せと妄想 e t c で対応（対抗）している。

知識のある人曰く、「気」のようなのみで対抗するのはムツカシイらしいが私にはそれができている。
不思議なこと・・・らしい。

だが、このところストレスや、睡眠不足が重なってその「気」でも呼ぶべきであろうか・・・が
急減していた。

意識が本に集中し、肉体から若干離れていたその時だ。

「くそっ!!」

女子らしくない言葉を発しつつも、
ふわふわと隙を見つけ、あわよくば・・・と取り憑こうとする浮遊霊等ではなく、
目的を持った、執拗な奴だった。

「悪霊・・・か!？」

本当にタイミングが悪い・・・。
静かなる意識戦が始まった。

（後書き）

さあ、崇めよ、奉れ、は五つに、感動の感想を存分に（ry

嘘です。

ごめんなさい。

しゃしゃりました。（土下座

読んでくださり誠にありがとうございます。
宜しければ、感想、評価を頂きたく存じます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8635r/>

靈感少女（ヲタク）と、その守護霊。

2011年6月4日09時17分発行